

政策	1 グローバルロジスティクスの港	施策推進 責任者	企画調整室長
基本施策	01 国際・国内海上輸送機能の強化		
個別施策	04 在来貨物等取扱機能を充実する		

1. PLAN(目的・内容)

目的	サービスの対象者(誰のために)	船社、港運
	サービスの対象物(何を)	公共在来・フェリー岸壁、荷さばき地、保管用地
意図(どういう状態にしたいのか)	在来貨物等が効率的で円滑な取扱がされる	
内容	近年、コンテナ貨物輸送が進展する一方で、在来貨物やフェリー貨物輸送が今後も重要な輸送モードであることは間違いありません。その輸送効率を向上させるため、在来船の大型化への対応や環境負荷の少ない輸送モードであるフェリー施設の充実などを図ることにより、在来貨物等が効率的で円滑に取り扱えるようにしていきます。	
	また、名古屋港は国際バルク戦略港湾に選定され、穀物産業の国際競争力の強化のため、穀物を取り扱うターミナルの更なる拠点化、高質化を図ります。	
目標	在来ふ頭・フェリーふ頭での貨物取扱量の増加や穀物輸送の効率化を図ります。	目標達成に影響する外的要因等
		世界の景気動向による貨物量の減少 高速道路の料金体系見直し政策

成果指標	実績等	年							目標 平成25	指標の説明(式)
		平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25			
外貨在来貨物量(公共) ※完成自動車除く	実績	千トン	3,833	3,143	3,308	3,662	3,844	3,390	4,000	・目標値は、直近(平成19年)の最高実績値への回復を目指して設定 ・コンテナは含まない
	達成率	%	95.8	78.6	82.7	91.6	96.1	84.8		
内貨在来貨物量(公共) ※完成自動車除く	実績	千トン	4,697	3,520	3,484	3,703	3,279	3,600	4,700	・目標値は、直近(平成20年)の最高実績値への回復を目指して設定 ・コンテナは含まない
	達成率	%	99.9	74.9	74.1	78.8	69.8	76.6		

2. Do(個別施策を構成する各事務事業の取組内容と今後の方向性)

重点化	担当課名	事務事業名(コード)	事務事業の概要	主な活動・成果指標	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	事業費の合計	目標値(年度)	平成25年度実施事業に基づく評価結果				
					実績	実績	実績	実績	実績見込み	平成25年度までの状況※1			事務事業※2	成果※3	コスト※4	備考(判断の理由等)	
					上段:指標達成状況												
					下段:事業費(千円・人件費込)												
	(企画調整室)計画担当	西部木材港再編計画の策定(港湾計画の策定)【再掲】(個04事01)	木材流通の動向ならびに、木材港及び隣接する木材団地の将来のあるべき姿を調査研究し、船舶の大型化に対応した在来バースのあり方を検討するものです。	策定進捗率(%)	18.5	21.4	24.3	27.1	35.7	42.9	(136,049)	100 累計 (H25)	遅れ				【本掲】個09事04にて評価する。
	(企画調整室)計画担当	フェリーふ頭将来計画の策定(港湾計画の策定)(個04事02)	フェリー需要の動向を踏まえ、利便性向上のための検討を行うとともに、港湾運営会社制度への対応も視野に入れた検討を行います。	策定進捗率(%)	18.5	21.4	24.3	27.1	35.7	42.9	123,262	100 累計 (H25)	遅れ	延伸・統合	→	→	・社会情勢の変化等を踏まえ、これまで取りまとめた基本方針や施策展開等の検証を行っていくため。(H25→H27に延伸) ・港湾計画の策定に係る事業として統合。
	(企画調整室)事業担当	稲永ふ頭ふ頭用地整備事業(個04事03)	複合一貫輸送に対応した内貨ターミナル用地の基盤施設整備 規模:7.1ha	事業進捗率(%)	79.3	79.8	79.8	79.8	79.8	79.8	81,000	100 累計 (H25)	遅れ	延伸	→	→	引き続き、土地需要を見極めながら整備を進めていくため。(H25→H26に延伸)
	(企画調整室)事業担当	飛島ふ頭(西)ふ頭用地整備事業(個04個04)	荷捌き施設及び保管施設としての機能強化のための貯木場埋立 規模:6.1ha	事業進捗率(%)	22.9	24.8	24.8	24.8	24.8	25.1	119,321	100 累計 (H26)	やや遅れ	継続	→	→	引き続き、着実に事業進捗を図るため。
◎	(企画調整室)バルク戦略担当	国際バルク戦略港湾の実現化に向けた調整(個04個05)	北浜ふ頭の穀物取扱機能について、アジア主要港と比べて遜色のない物流コスト・サービスの実現を図るとともに、将来的な穀物ターミナルの保管機能・生産機能の更なる拠点化・高質化、船舶の大型化への対応を平成32年度を目処に実現を図るための調整を行います。【再掲】個11事06	国際バルク戦略港湾推進協議会及び作業部会の開催(回)				1	1	0	99,532	2 (H32)	やや遅れ	継続・統合	→	→	・目標年度に向けて、関係者と調整を図っていく必要があるため。 ・北浜ふ頭における新食糧コンビナート整備に係る事業として統合。
○	(企画調整室)事業担当	北浜ふ頭における新食糧コンビナート整備の事業化(個04個06)	穀物の保管機能及び生産機能の移転集約、拠点化に向け、北浜ふ頭地先で埋立てによる新食糧コンビナート用地(約70ha)の確保に係る調査及び手続を行います。【再掲】個11事07	作業進捗率(%)					8.3	25.0	436,491	100 累計 (H27)	順調	継続・統合	→	→	引き続き、埋立て免許取得を目指して必要な取組みを実施していく必要があるため。 ・北浜ふ頭における新食糧コンビナート整備に係る事業として統合。
施策コスト(事業費合計)					120,316	68,089	9,979	68,426	145,422	447,374	859,606						

注)事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。

注)目標値欄の「(継続)」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は、原則として平成25年度を中間目標として設定しています。

※1

記入	内容
完了	前年度以前に完了した事業
順調	80%の進捗度合
やや遅れ	60%以上の進捗度合
遅れ	60%未満の進捗度合

※2

記入	内容
継続	施策の成果向上・維持のため、事務事業を継続することが妥当
完了	目的を達成したため、事務事業を完了することが妥当
延伸	状況を勘案し、目標年度を先送りするもの
統合	他の事業とまとめ、一体的に評価することが妥当
休廃止	終期を設定し事務事業を廃止または休止することが妥当

※3

記入	内容
拡大	何らかの改善策の実施により成果の拡大を必要とするもの
維持	従来どおり進めていくもの
縮小	一定の成果を達成、必要性が薄れているなどの理由で成果を縮小するもの

※4

記入	内容
拡大	成果の拡大(または維持)のためにコストの拡大を必要とするもの
維持	従来どおり進めていくもの
縮小	一定の成果を達成、必要性が薄れているなどの理由でコスト縮減を図るもの

4. ACTION(個別施策全体の今後の取組の方向性)

次期政策体系への方向性	「次期政策体系への方向性」を判断した理由(本組合財政収支への影響の考察を含む)
成果※3	コスト※4
→	→
・国際バルク戦略港湾への取り組みなどにより、在来貨物等取扱機能の充実に向けた取り組みを強化・拡充していく必要があるため。	
次期政策体系への展開(個別施策の構成、新規事業の創出、事務事業の見直し等)	
・国際産業ハブ港として、多様な在来貨物の取扱機能を充実させることは、背後圏産業の競争力強化に向けて重要であるため、機能や施設の拡充を目指します。	
・飛島ふ頭のふ頭用地整備は、背後用地の分譲(平成27年度)に合わせ着実に整備を進めていきます。	
・フェリーふ頭将来計画の策定(港湾計画)については、これまでに取りまとめた基本方針や施策展開の検証などを行い、平成27年度の改訂を目標に取り組んでいきます。	
・国際バルク戦略港湾の施策実現に向けて、関係者調整を進めるとともに、特定貨物輸入拠点港湾の指定や国の予算確保などに取り組んでいきます。	

3. CHECK(個別施策全体における取組状況と課題)

現政策体系における主な取組など	現政策体系における課題認識など
・フェリーふ頭将来計画の策定(港湾計画)については、パブリックコメント等を実施し、基本計画の方針、施策展開について検討しましたが、国の新たな成長戦略や総合物流施策大綱など、長期的視点やソフト面の充実を含め、将来動向を見極めながら計画内容を検討していくこととしたため、平成25年度の改訂は行いませんでした。 ・稲永ふ頭のふ頭用地整備は、具体的な土地需要が定まらないため、暫定的にモータープールとして活用しております。 ・飛島ふ頭のふ頭用地整備は、複数の企業から背後用地への進出意向が出てきたため、整備の進捗を図りました。 ・国際バルク戦略港湾の施策実現に向けて、関係ユーザーや関係行政機関等で、大型船への対応や支援策等の検討会を行いました。 ・北浜ふ頭については、新食糧コンビナート整備に向け、現況調査や土質調査、概略検討の調査を実施しました。	・フェリーふ頭将来計画の策定(港湾計画)については、平成27年度の改訂を目標に取り組んでいく必要があります。 ・稲永ふ頭の用地整備は、具体的な土地需要が定まり次第、進めていく必要があります。 ・飛島ふ頭のふ頭用地整備は、背後用地の分譲(平成27年度)に合わせ着実に整備を進める必要があります。 ・国際バルク戦略港湾の施策実現に向けて、関係ユーザーや関係行政機関等で検討会を行いました。引き続き実現に向け関係者との調整など、順次取り組んでいく必要があります。
現政策体系における事務事業の適正性	
・事務事業構成は妥当です。	